

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:16.

On the job training (OJT)を活用した新人看護師への看護過程サポートの
教育効果と課題

谷口 亜紀子, 植山 さゆり

On the job training (OJT) を活用した 新人看護師への看護過程サポートの教育効果と課題

旭川医科大学病院 看護部

○谷口亜紀子 植山さゆり

【背景と目的】

A病院では、平成20年度より専従の教育担当看護師（以下教育担当者）がOJTで看護過程の指導（以下看護過程サポート）を実施してきた。看護過程サポートは、新人看護師からの要望時に、教育担当者が各部署に出向き、事例に合わせた内容で看護過程、看護診断の指導を行っている。そして、教育担当者がサポートした内容を看護過程サポートの記録（以下フィードバックシート）に記載し部署へ伝達している。今回、新人看護師への看護過程サポート内容と新人看護師の自己評価を基に、教育効果の検討を目的に調査を行った。

【方法】

期間：2017年8月から2018年1月

対象：看護過程サポートを受けた新人看護師53名のうち、同意が得られた51名（96%）。

方法：看護過程サポート後、新人看護師に看護過程サポート内容の理解に対する

アンケート8項目と教育担当者が記載したフィードバックシート12項目でクロス表を作成、層別分析し検討した。

【倫理的配慮】

A病院の倫理審査委員会の承認を得た。アンケートは記名式で回収し、対象者に研究の主旨、研究協力は自由意思であること、個人情報の保護等を文書で説明し同意を得て実施した。

【結果】

看護過程サポートを1回受けた者は30名(59%)、2回は21名(41%)、サポートの延べ件数は72件であった。

フィードバックシート12項目の延べサポート件数は280件で、最も多かったサポート内容は、インタビューの仕方37件、次いで焦点アセスメント35件であった。

看護過程サポート内容と新人看護師の理解では、看護過程サポートを受け「できた・ある程度できた」は、健康知覚/健康管理パターンに関連させた各パターンのデータ収集29件（97%）、診断候補の検証18件（95%）、患者目標12件（92%）、看護介入10件（91%）、診断候補の選択21件（91%）、診断指標・関連因子の特定14件（88%）、インタビューの仕方32件（87%）、焦点アセスメント30件（85%）であった。「あまりできなかった」が多かったのは、焦点アセスメント5件（15%）、インタビューの仕方5件（13%）であった。

【考察】

看護過程サポート内容の理解では、全ての項目で「できた・ある程度できた」と80%以上が回答し、サポート内容は新人看護師の理解に繋がっていると考えられる。一方、焦点アセスメント、インタビューの仕方は、他の項目に比べ「できた」と回答した者が少なく、「あまりできなかった」が多い傾向がみられた。看護過程サポート内容からも新人看護師は、目的をもって患者・家族の考えや感情を引き出す質問の仕方や情報を関連付け収集しアセスメントすることに困難を感じていた。データ収集とアセスメントは、看護診断、患者目標、看護介入の基盤となる看護過程の構成要素であり、サポートに重点を置く必要性が示唆された。次年度は、看護過程研修・サポート内容の検討、サポート後の部署との連携の強化を図っていく。